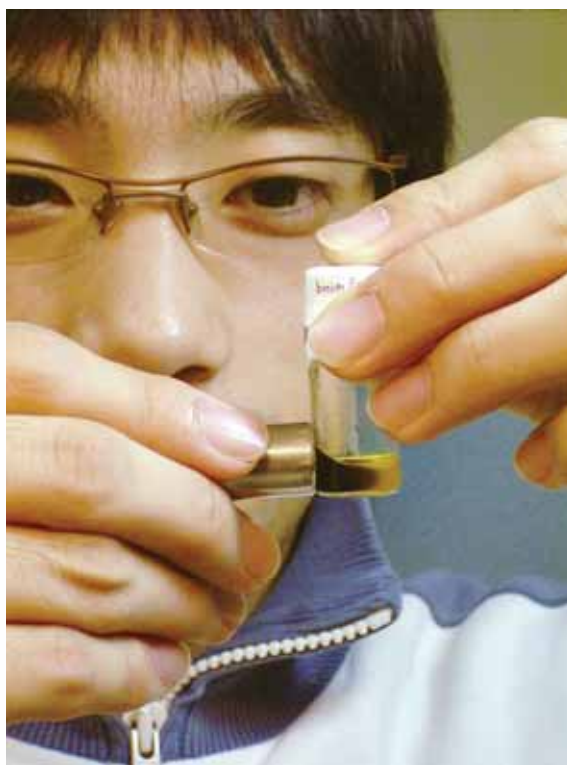


東京大学 理学系研究科・理学部ニュース

36巻4号 2004年11月20日発行

<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/>

理学系研究科・理学部ホームページ
<http://www.s.u-tokyo.ac.jp>
と連携しています。



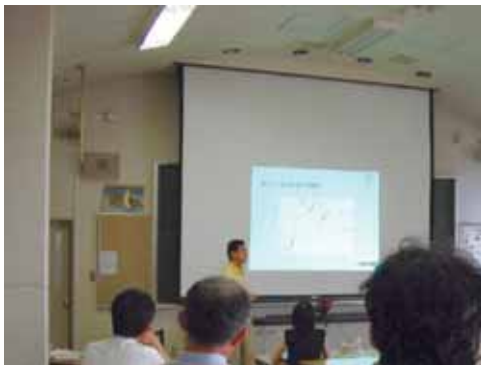
化学専攻の濱口宏夫教授と林賢大学院生は、磁石に強く反応する新しい種類の液体「磁性イオン液体」塩化鉄(III)酸1-ブチル-3-メチル-イミダゾリウムを発見した。この液体は、プラスの電荷を持つ陽イオンと、マイナスの電荷を持つ陰イオンのみからなるイオン液体の一種で、磁石を近づけると上図に示すように強く引き付けられる。この発見の報告は、日本化学会「Chemistry Letters」誌の12月号に掲載される(詳しくは本文 p.22 参照)。





NPO サイエンス・ステーションの活動

(詳しくは本文 p.3 参照)



▲ 都立立川高校で7月1日に実施した出前授業の様子。この日は比較的小人数を対象にアットホームな雰囲気で行われた。写真は大学での化学について講演する化学科4年の大谷陽祐くん。



▲ 天文センター木曾観測所が主催する銀河学校をサイエンスステーションが共催。3月26日から3泊4日のスケジュールで始まった銀河学校2003で、シュミット望遠鏡を用いた観測実習に参加し、実習指導と講演を行った。



▲ 文教大学で8月2日に行われた小中理科教員研修にサイエンスステーションから講師を派遣。最新の天文学成果を講演した他、オリジナル教材を使った実習などを行った。写真は実習指導中の天文センター助手でサイエンスステーション副理事長の宮田隆志。



▲ 都立青山高校で6月23日に実施した出前授業の様子。写真は宇宙X線の観測的研究について講演する物理学専攻修士課程2年の二河久子さん。当日はこの他にナノテクノロジーについての講演もあり約280名の生徒が出席した。

